

隨泉寺寺報

平成 21 年 (2009 年) 4 月号 第 464 号

TEL 082-892-0217 <http://www.zuisenji.com/>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

春季永代経法要

講師 西方寺住職 吉崎 哲真師

講題 『わかるということ』

四月八日はお釈迦様の誕生日です。はなまつりです。

お釈迦様は、今からおよそ 2500 年前に、インド北部・ヒマラヤ山脈のふもとルンビニーの園でお生まれになりました。

お釈迦さまの父・浄飯王 (シュッドーナ) は、釈迦族という一族の王様でしたので、お釈迦様は、その国を継ぐべき皇太子としてお生まれになりました。母はマーヤ夫人といい、お釈迦様が生まれて、一週間ののちにお亡くなりになりました。お釈迦様は、幼名をゴータマ・シッダールタといいます。「ゴータマ」は牛を意味し、「タマ」はすぐれたことを意味します。「シッダ」は成就 (じょうじゅ)、「アルタ」は目的を、それぞれ意味します。

お釈迦様は誕生されたのち、七歩歩んで「天上天下唯我独尊」と唱えました。「天にも地にも我一人のみが尊い」という意味です。我一人と言うのは、すべての命が かけがえのない尊いのち ということです。

4 月の法座予定

- 4 月 12 日 …… 掃除 上平原第 1
- 4 月 14 日 昼席午後 1 時より …… 春季永代経法要
- 4 月 14 日 夜席午後 7 時より …… 出張法座 上平原集会所
- 4 月 15 日 朝席午前 10 時より …… 仏教婦人会総会 おとき
- 4 月 15 日 昼席午後 1 時より …… 春季永代経法要
- 4 月 15 日 昼席後より …… 引き続き門信徒会役員総会
- 5 月 2 日 午後 6 時より …… 門信徒会本部役員会



☆ イチローはすごい

WBC 決勝戦

日本対韓国戦は、延長戦で日本が韓国を 5:3 のスコアで下し 2 連覇で世界一の名譽を勝ち取った。その立役者は、やはりイチロー選手だった。

二次リーグを含めて、これまで 3 安打とほとんどヒットが出なかったイチロー選手だった。さすがのイチロー選手も、すこし弱音を吐き、心がなえそうになっていた。しかし、選手が集まる前から打撃練習で、調子を取り戻す調整を図り、みんなが集まった後も打撃練習をしていた。

名選手は練習をしなくても良い。天才は練習をしなくても成績を残すという説もあるが、イチロー選手は、天才打者と言われているが、もちろん素質も有るが人一倍の努力でここまで実績を上げて来たと思う。「天才」と「凡人」を分けるもののひとつに、**苦しみの中にこそ進化のヒントが隠されている**。逆境をチャンスだと捉え吉に変える、プラス思考と心の柔軟性を保つ。成功から得た自信



は実はもろい、困難を切り抜けたときの自信こそ本物だ。プレッシャーから逃れることをせずそれに立ち向かって自らを超える。「目に見えないものが重要、目に見えないものだから超えるのがたいへん」という。

数年前同様のテレビ番組の中で、どうしてそんなに努力できるのかという問いに対し「当たり前です。僕がいくら貰っていると思っているんですか」と答えた。彼が無造作に肩にかけているバグの値段はなんと 700 万円。

イチローに“偉大《いだい》な才能”を与えたのは、名古屋空港の近くにあるバッティングセンターである。イチローは小学三年から中学三年までの七年間、そこに毎日 いたつめた。それ

も一週間に一日くらいは休むといったレベルの生易《なまやさ》しいものではない。一年間に 362 日 いたつめたという。休んだ 2 日は、バッティングセンターが休業した、正月の 2 日間だけだった。世の中を見渡せば、天才はどこにでもゴロゴロ転がっている。

才能は、成功するための一つの要素にすぎない。天才と言われる人間であっても、絶《た》え間ない精進《しょうじん》を繰り返して、初めて彼らは成功者の仲間入りをすることができる。

☆御礼

永代経懇志 金 貳拾萬円 住田 均殿 故 住田 正記様 特 永代経志として

☆御礼

門信徒会へ 金 一封 住田 均殿 故 住田 正記様 香典返しとして

みんなみんな

仏さまのお恵み

お医者さんの薬だけが薬だと思っていたら ちがった
便所へ行くのにも どこへ行くのにも
点滴台をひきずっていく
一日中の点滴がやっと終り
後の始末をしにきてくれたかわいい看護婦さんが
「ご苦労さまでした」といつてくれた
沈んでいる心に
灯がともったようにうれしかった
どんな高価な薬にも優った
いのち全体を甦らせる薬だと思った
そう気がついてみたら
青い空も、月も、星も、花も、秋風も、しごとも
みんな みんな
人間のいのちを養う
仏さまお恵みの薬だったんだなと
気がつかせてもらった
☆『象の墓場』と言うドキュメンタリーを見ました。



死を悼む姿の尊厳、人の死を悼み、悲しむ姿にこそ人間の尊厳を強く感じます。驚いたのはテレビのドキュメンタリー番組で見た象のすがたです。いわゆる象の墓場を りかかった象の一群の様子は、それまでとは明らかに異なった厳粛さで哀愁の感情を示します。中の一頭はある遺骨に対し、それが肉親のものと知ってか、立ち止まって愁嘆のしぐさを表します。ああ、象にもわかるのかと感慨を抱きました。いのちの尊厳を垣間見た思いです。全ての生き物を「有情」と呼んできた仏教の伝統の意味する所をあらためて考えさせられたことです。

☆『だいじょうぶだよ、ゾウさん』 ローレンス・ブルギニョン作 ヴァレリー・ダール絵 柳田 邦男・訳

年老いたぞうと幼いネズミの物語。毎日仲良く暮らしていたぞうとネズミ。死期を悟ったぞうはぞうの国（ぞうの死に場所）へ行こうとしますが、釣り橋が壊れていてわたれません。「一旦、渡ったら戻れない」とぞうが言った言葉をネズミはなかなか受け入れられません。



ぞうはますます年を取り、体が弱るのに比べ、ネズミは体だけでなく心も成長していきます。そして、ネズミは弱っていくぞうの世話をするうちに、ぞうにとっての幸せは何かということに気づきます。

永遠の れは悲しく、残されたものにとってはとても辛いこと。でも、残されたものだからこそ、愛する人のために最後にできることをしてあげようと思えるのです。

悲しい結末ながら、ちよっぴり心があたたかくなる印象を受けるのは、死だけでなく、ネズミの心の成長と優しさや思いやり

を同時に語っているからでしょう。子供たちに死という意味を感じさせてくれる秀作です。 ☆『象の背中』 監督 井坂聡 原作 秋元康 出演 役所広司 今井美樹 生きていたい最後の一瞬まで

突然、末期の肺がんで、余命半年を宣告された48歳の藤山幸弘は、残された時間をどう生きるか、選択を迫られる。妻と二人の子どもはもちろん、建設会社の部長として精魂傾けてきた、プロジェクトも気掛かりだ。しかし、結局は延命治療を拒否し自分なりに人生を全うしようと決断する。激痛に耐えながら、心残りのないように最後の れを告げておきたい人たちを、訪ね歩く幸弘だった。

最初に会ったのは、初恋の人だった。思いを告げて驚く彼女に、ガンであと半年だからどうしても言いたかったと告げる。次は高校の野球部の親友、些細なことでもけんかして、それ以来一言も話をしていない。 れを告げてキャッチボールをする、それですべてが じる。ある日病院で、仕事上ひどい仕打ちをして、会社を倒産させてしまう下請けの社長と会う。彼は妻と離婚して一家離散という。土下座をして謝る。生きるということは、知らないうちにたくさんの人に、迷惑をかけて、酷いことをしているものである。

死期を悟った象は群れから離れ、ひっそりと最期を迎える場所を探して、旅立つというが、たして人間に、そんな潔い真似ができるだろうか。役所広司演じる主人公は苦悩の末、「死 まで生きる」決意をし、大切な人たちに見守られて逝く事を選ぶ。当然ながら、死の宣告は本人だけでなく、家族をはじめ周りの人々へも、重くのしかかる。それぞれが幸弘の選択を受け入れてゆく過程は、切なくも残酷だ。一 りやりつくした藤山は、ホスピスに入りたくなり、長年口も聞いていなかった実兄・幸一に、死後の家族の生活費1000万円を工 してもらう。海辺のホスピスで、スイカ片手に死にたくない、本音を語る主人公の横で、何も言えない兄。『お兄ちゃん、死にたくないよー、こわいよー』と泣く姿は、胸を打つ。それでも、尊重されるべきは死にゆく者の意志であるなら、これもまた潔い最期と言えるだろう。

